

黄色い悪魔の独り言

推しキャラの絵が欲しい

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

カレラの日常とかを書いていきます。

- ・妄想が入っています。原作とちやうやんけつていうのは、、ね？
- ・ガバイ設定

目次

黄色い悪魔の独り言



やあ。私の”名前”はカレラだ。ニンゲンからは原初の黄だのジョーヌだのよばれてたが我が君、いやここでは「リムル様」と呼ばせてもらおう。

この”カレラ”という名前はリムル様からもらった大切なものなんだ。

私がリムル様の配下についたわけはな、クロ、いや今はディアブロか。

あいつ名前では呼ばないとすぐブチギレるからな。まあ私もウルティマもテストアロツサもキレるから人のこと言えないんだけどね。

その話は置いていて、ディアブロはリムル様につかえる前は世界をウロウロしてたんだ。

何がしたいというわけもなくただただ世界をうろついてたんだよね。

悪魔っていうのは早く受肉して強さを求めるものなんだが、アイツは強さを求めようとしない。

それに加えて世界最強と称されるギイと戦って引き分けたんだよ。(もちろん悪魔界での戦闘だけどね)

受肉してないのに強い、それでもってそれ以上の強さを求めない。それが私にとってもウルティマもテストアロツサも、とても苛立つてたんだ。

この話を続けてもまた思い出してイヤになるから終わりにしよう。ディアブロがリムル様につかえる前は世界をウロウロしてたけどその時にシズだったかな？

そのシズって人間にえらくご執心だったみたいだったんだ。

んで、リムル様はそのシズってやつを詳しくは知らないけどなんかして(今シズってやつがいらないから殺したのかな?)ディアブロの関心を引き付けたいらしい。

そこからどうやって仕えるようになったかはもう知ってると思うしめんどくさいからパス。

ただ初めて私がリムル様に会ったときにちよつと失敗をしてしまったんだ。

え？それ聞く？君女性への気配りできてないよ？

まあ、言うけどね。

ウルティマ、テストロツサ、私で初めてリムル様に会ったときにはスライムごときに仕えるとかディアブロおかしくなった（初めからディアブロは頭おかしかったけどね？）

ほかの二人は大人しくしてたけど、ディアブロ大丈夫？wって感じでリムル様に対してちよつと強めに「威圧」をしたんだ。

そしたらなんともなかったかのように対処されちゃって。

それが私の失敗だよw

今テンペストで何をしてるかって？

私はリムル様から最高裁判長の役職を承ったよ。

私は賄賂とかそんなしよ——もないものに惑わされたりしないし暴力にも負けないからね。

たとえやったとしてもディアブロくらいじゃないと先に相手が折れるしね。

けどやることが全くないわけじゃないんだが、この町は平和だから直接裁判することはそんなにないんだよ。

部下からの報告をディアブロに伝えてつていうような事務仕事が多いんだよな。

ちなみに私の上司はディアブロだ。いやだけどね。ガマンシテルヨ。問題起こして追い出されたくないもん。

仕事の日はこういうことをやってるよ。

休日は服を買いに行ったり吉田氏の「すいーつ」というものを買ってるよ。

服を買いに行くときはいつもウルティマとどっちが先に試作品を着るとか？

悪魔は物質創造で服を自由に変えられるけど、、シユナさんのセンスは素晴らしいから私も着たいんだよね。

今日はこれくらいかな？

また会えたらいいな！

じゃ

◇◆◇